



しじゅうから

福島市小鳥の森通信 2017年2月号 No.375

小鳥の森で観察してみよう 64

マヒワ

分類：アトリ科・カワラヒワ属

大きさ 体長：12cm
(すずめより小さい)

生態：針葉樹の林やその周りで生活する。
子育ての時期以外は群れをつくる。
ハンノキなどの果実や種子、芽を食べる。

小鳥の森での観察：

冬にオオバヤシャブシの実をつついて中の種を集団で食べている。
給餌台に集まることもあるが、自分ではヒマワリの種を割れず、他の鳥の食べ残しを狙う。

オスは黒い頭



レモンイエローの体

佐々木 諒子

今回の絵は、ささきりょうこさんが描いてくれました。



2月の自然予報



2月に入ると野鳥の初鳴きが聞こえてくる頃になります。初鳴きというのは、その年に初めて聞こえる「さえずり」のことです。

夏鳥の場合は4月頃にやってくるのでまださえずりを聞くことはありませんが、留鳥の場合は気の早い鳥たちがさえずりを始めます。

河原ではヒバリが「ピーチクパーチク」と、田畑ではキジが「ケンケン」と、森ではウグイスが「ホキョ」と鳴くでしょう。

2月頃の歌い始めは、練習の段階なので、ウグイスも「ホ～ホケキョ」ではなく、「ホキョ」と短くあまり上手ではありません。

昨年は雪が少なかったこともあり早目に鳴き始めていたようです。今年の2月は初鳴きが聞こえるのでしょうか。みなさんも耳を澄まして散策してみてもいかがでしょうか。

2016/2/23	鳥類	ヒバリ
2016/2/25	鳥類	キジ
2016/2/27	鳥類	ウグイス

ヒバリ



キジ



ウグイス



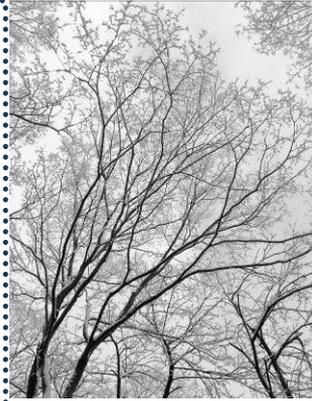


1月の自然



1月初旬は氷点下にならず、晴れた暖かい日が続きましたが、12日の夜にようやくまとまった雪が降り積もりました。翌朝13日は晴れ間が広がり、雪をかぶった木の枝やスギやタケの葉は、まるで砂糖やクリームをまぶしたお菓子のようでとてもきれいでした。

そんな日は小鳥の森に棲む生き物達が残した「足跡」を見ることができます。この日も降ったばかりの雪の上に点々と、蹠球（人の手のひらに当たる一番大きな肉球）と5本指の跡が残っていました。ネイチャーセンターから追ってみると、ときどき森の中に寄りながらも、カワセミの小径の真ん中を進み、ホオジロの小径へと続いていました。生き物達も歩きやすい場所を選んで活動しているのかもしれない。



小鳥の森スタッフだよ!

皆さんの身近でよく目にする野鳥としてカラスがいます。そのカラスの仲間には、寒い冬を乗り越えるために日本に渡って来る種類がいるのを知っていますか。

今年の冬も福島市内には「ミヤマガラス」が遠くシベリア地方から渡ってきています。普段見ているカラスと姿は似ていて、全身色は黒く、遠くからでは識別が難しいかもしれません。カラスがいたらよく観察してみましょう。おでこが角張る、口ばしのつけ根が白い、という特徴があればミヤマガラスです。主に集団で行動し、田んぼなどの環境を好みます。

皆さんがお出かけや登下校の際に、身近でカラスを見つけたら、冬限定で見られるミヤマガラスかどうか観察してみてくださいはいかがでしょうか。

(レンジャー・ほそいとしひろ)



ミヤマガラス (冬鳥)

小鳥の森ボランティアガイド

養成講座を開催しました。

小鳥の森では、毎年小鳥の森で活動したり、出前講座のお手伝いをしていただいたりするボランティアガイドの養成講座を開催しています。ボランティアガイドになるためには1年を通して行われる講座を受講する必要があります。

1月21日には「プログラムの体験」として、野鳥の重さや大きさを体感したり、木工クラフトづくりを体験したりしました。

次年度も5月からボランティアガイド養成講座を開催する予定になっておりますので、興味のある方はぜひお申し込みください。



※福島市小鳥の森では色々なイベントを開催しています。

詳しくはネイチャーセンターまでお気軽にお問い合わせ下さい。

*小鳥の森ホームページで小鳥の森スタッフが独自に測定した環境放射線量を公開しています。

福島市小鳥の森 (ネイチャーセンター) 開館時間：午前8時30分～午後5時
《入場無料》 休館日：毎週月曜日 (祝祭日の時はその翌日)

〒960-8202 福島市山口字宮脇 98 Tel: 024-531-8411 fax: 024-534-8800

小鳥の森のホームページ・・・ <http://www.f.kotorinomori.org/>

小鳥の森通信「しじゅうから」2017年2月号No.375/企画・発行：福島市小鳥の森/日本野鳥の会ふくしま